

(別紙)

## 水稻の出穂状況（8月5日現在概況速報）について

農業普及技術課 農業革新支援担当

- 8月5日現在、県全体で72%の水田で出穂したとみられる。  
地帯別の出穂割合は、北上川上流72%、北上川下流75%、東部58%、北部38%である。
- 県全体の出穂始期（10%出穂）は、平年より2日早い7月31日頃、出穂盛期（50%出穂）は1日早い8月4日頃と推定される。

表1 県内水稻の出穂状況（8月5日現在、各農業改良普及センター調べ）

地帯名	出穂割合 (%)				出穂時期							
	本年	過年次同時期			本年 (月/日)			平年 (月/日)			平年差 (日)	
		H30	H29	H28	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期	始期	盛期
北上川上流	72	61	35	33	8/1	(8/4)	8/2	8/6	8/10	-1	(-2)	
北上川下流	75	66	41	41	7/30	8/3	8/2	8/5	8/9	-3	-2	
東部	58	42	20	54	7/31	(8/4)	8/3	8/6	8/11	-3	(-2)	
北部	38	56	11	29	8/4	-	8/3	8/6	8/11	+1	-	
県全体	72	64	37	39	7/31	(8/4)	8/2	8/5	8/10	-2	(-1)	

注1) 出穂した水田の割合が10%を始期、50%を盛期、90%を終期（市町村単位で調査⇒作付面積による加重平均）。

注2) 平年は、平成21～30年の10カ年の平均値。

注3) 括弧内は、一部の市町村で盛期に達していないため、推定値として記載。

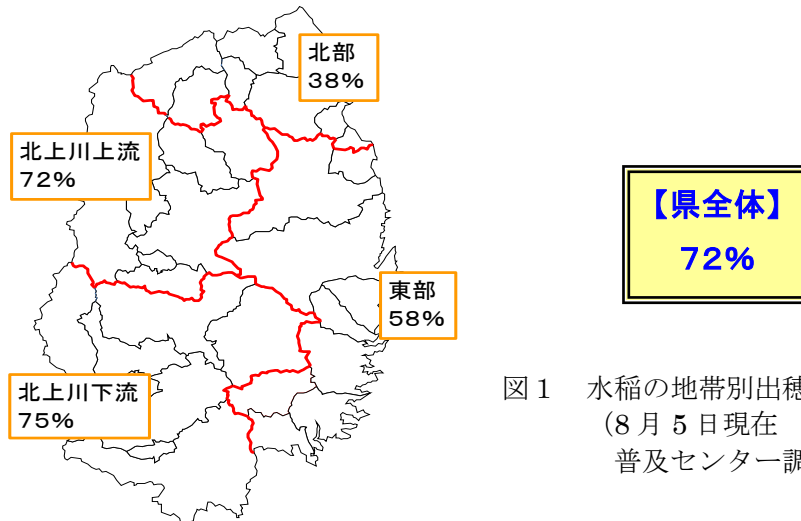


図1 水稻の地帯別出穂割合  
(8月5日現在 各農業改良普及センター調べ)

### 3 栽培管理のポイント

- 出穂・開花期間は最も水が必要な時期なので、田面が露出しないよう湛水状態で管理する。  
開花終了後は間断かんがいを基本とする。
- 東北地方の1か月予報（仙台管区气象台，8月1日発表）によると、向こう1か月の平均気温は、高い確率が60%と予想されている。  
気温が高い日が続く場合（概ね日中30℃以上、夜間23℃以上）、高温による玄米品質の低下を回避するため、積極的な水の入替えにより地温の低下を図る（特に夜温の低下に努める）。
- 斑点米の原因となるカスミカメムシ類の発生量は「やや多」の予想である。  
穂揃1週間後の薬剤防除を確実に実施するとともに、カメムシ増殖源となる雑草（ホタルイ類等）の多発田では、追加防除を検討する。
- 穂いもち病は基本防除を徹底するとともに、必要に応じて追加防除を実施すること。

※ 参考 1) 「農作物技術情報 号外（高温対策）」農業普及技術課 農業革新支援担当（8月5日発行）

2) 「病害虫防除速報 No. 10（水稻-6）」岩手県病害虫防除所（8月6日発行予定）